

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：11501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13753

研究課題名（和文）19世紀後半以降における中国の在来金融機関の同業間貸借市場の動向分析

研究課題名（英文）The Analysis of the Movement of the inter-Indigenous Bank Market after the late 19th Century in China

研究代表者

諸田 博昭（Morota, Hiroaki）

山形大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：70785089

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、開港以降の中国における在来の金融機関の銭荘、及び銭荘の組織した同業間貸借市場に着目し、その運営の実態や、金利の動向を実証的に解明することで、法規と市場の自律的な活動の如何なる相互関係によって、金融市場の秩序が形成されたのか、その一端を明らかにすることを企図したものである。本研究によって、20世紀戦間期の上海において、明文化された全国画一的な法律以外に、ギルド的規制が貨幣流通に大きく寄与していたこと、上海の標準的短期金利は、政府機関が鑄造した貨幣ではなく、民間業者が鑄造した貨幣の供給量に規定されていたことなどが判明した。この成果は、次の科研プロジェクトで更に発展させる予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究課題の根底には、特定の貨幣が一般的受容性を持つに至る過程、及びその貨幣の需給バランスを示す利子率の望ましい水準の検討など、貨幣論・金融論とも重なる問題意識がある。貨幣の一般的受容性については、政治権力の貨幣流通への影響力を重視する貨幣固定説やMMTがある一方、民間における自生的な決済機構との親和性を重視する説もあり、上記の問いは昨今の世界的な財政赤字の増大などとも関連して盛んに議論されている。19世紀後半～20世紀前半の中国の貨幣史研究は、このような現代的問題についての理解を深める上でも重要な意義を持つもので、本研究は金融論と経済史の橋渡しの役割を果たすものでもある。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to empirically investigate the operation of the traditional financial institution called qianzhuang and the interbank lending markets organized by qianzhuang during the interwar period in the 20th century in China. The intention is to reveal a partial understanding of how the order of the financial market was formed through the interaction between regulations and the autonomous activities of the market. This research has revealed that in Shanghai during the interwar period of the 20th century, guild regulations significantly contributed to the circulation of currency, apart from nationally standardized laws. It also became evident that the standard short-term interest rates in Shanghai were determined by the supply of currency minted by private entities rather than government agencies. These findings will be further developed in the following research project.

研究分野：経済史

キーワード：貨幣史 金融史 金融市場の安定 内部貨幣の創出 ギルド的規制と市場秩序 短資市場 中国史

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの中国経済史研究において、本科研プロジェクトが研究対象とした錢莊、あるいは錢莊が運営した同業間貸借市場の運営の実態、そこで成立した金利である銀拆などは、あまり詳しく論じられることがなかった。それには資料的制約もあるが、なにより、淘汰される運命の小さくて古い伝統的金融と論じられ、実証研究の対象としてそれほど多くの関心を寄せられてこなかったこととも関係していると思われる。それに対し、本科研プロジェクトは、中国経済史のみならず、国家という枠にとらわれない貨幣の一般的受容性の形成過程の分析において、錢莊、あるいは錢莊が運営した同業間貸借市場の実態解明が役立つと考え、詳細な実証研究の実施を試みたものである。

### 2. 研究の目的

20世紀前半を対象とした中国金融史は、西欧的な近代国民国家の建設に対応する形で、中国の金融システムも急速に近代化していったと議論してきた。つまり、有限責任制の西欧式銀行の発展(以下、単に銀行と記す)貨幣の統一、及び中央政府による発券独占などの詳細を明らかにすることを通じて、バラバラで非画一的な貨幣、決済の慣習、及び金融機関の経営の在り方などが中央政府の主導で一つに纏められ、金融システム全体が欧米的制度に基づいた健全なものへと進歩してきたという金融史像を描いてきたのである。

それに対し、本研究は、無限責任制の在来の小銀行である錢莊がギルド的規制に基づいて創出した貨幣や、自律的に形成した地域的な同業間貸借市場の役割の重要性を実証し、近代国民国家の建設と対応して進められた欧米の制度の導入が、地域的、慣習的な金融秩序に代替することで、金融システム全体の安定と発展が実現されたとする単純な理解に一定の見直しを図ることを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は、中国在来の金融機関である錢莊や、錢莊の組織した同業間貸借市場である錢行に着目し、その運営の実態や、金利の動向を実証的に解明することを企図したものである。具体的な研究計画遂行の枠組み、および方法は以下である。

(1) 錢莊の内部貨幣の創出と銀行券普及の関係を検討する。新型コロナウイルスの流行前に収集を進めていた、主に上海市档案馆に所蔵されていた当時の有力発見銀行の档案資料を用いて、銀行券の発行準備に錢莊が創出した内部貨幣がどのくらい含まれていたかを調べた。これは、この科研プロジェクトが始まる前からのテーマだったが、科研費によって、更に詳細な検討を実施することができた。この成果は、諸田博昭「戦間期中国の銀行券発行における領用の役割」『社会経済史学』第85巻第2号、pp.161-181、2019年8月として発表した。

(2) 錢行の運営の実態を解明する。錢行の金利がそれほど長きに渡って上海金融の標準的金利として機能し続けることができたのは、その錢行を組織した錢莊の経営が比較的健全で安定的なものであったこと、そして、錢行の運営が円滑なものであったことなどに由来していると考えられる。本研究では、その中でも特に不明確な点が多く残されている後者、つまり錢行の運営の実態とその時期ごとの変化を明らかにし、それが金融システム全体の動向とどのように関係していたかを考察する。資料としては、上海市档案馆や中国第二歴史档案馆の他、錢莊との貸借関係の多かった外国銀行の資料を見るため、大英図書館やLSEの図書館などで資料収集をすることも考えていた。しかし、新型コロナウイルスの流行のために、計画を大幅に変更し、国内で閲覧可能な資料の収集にならざるを得なかったため、この方法については、今後多くの課題を残してしまっている。

(3) 錢行の金利の変動要因の計量的分析を実施する。錢行の金利の変動要因としては、外国銀行や錢莊の銀保有量、貿易収支、決済や納税、輸出商品の出回りなどが、当時の調査書などで指摘されている。本研究では、それらの経済指標と利子率との関係の計量分析を行い、各要素の利子率に対する実際の影響の程度を調べる。これについては、科研研究費で当時の新聞の電子版などを購入し、分析を進めることができています。成果は、“Was the native interest rate good for financial stability? :Money creation, clearing system, and a growth of a modern banking sector in Shanghai in the early 20th century”, Session ‘Crises, money doctors and reforms’, XIXth World Economic History Congress, Paris, 29th July 2022にて発表した。

(4) 錢行の金利と業界の自主的改革、国家体制の関係を検討する。具体的には、19世紀末における、錢行における最大利子率の設定、キャッシュレスの集中決済機関の組織など、錢莊が主導して実施した同業間貸借の円滑化を図るためのいくつかの改革、中華民国の建国とそれに伴う銀行の増加、国民政府の金融制度改革、が錢行の金利の安定化に寄与したのかどうかを分析する。これについては、主に(3)で作成したデータについて統計分析を実施し、金利の推移と政治的な変動には関係があるものの、清朝 北京政府 国民政府という中央政府の切り替わりで、金利水準や変動の傾向などが特に変わらなかったことを確認している。

#### 4. 研究成果

最終年度までの論文としては、諸田博昭「戦間期中国の銀行券発行における領用の役割」『社会経済史学』第85巻第2号、pp.161-181、2019年8月と、諸田博昭「20世紀前半期中国における地域的貨幣と信用」鎮目雅人編著『信用貨幣の生成と展開』慶應義塾大学出版会、pp. 301-333、2020年8月28日とHiroaki Morota, “Chinese Currency Circulation and Credit Order in the Interwar Period ”, in Chi Cheung CHOI, Keng We KOH, and Tomoko SHIROYAMA (eds.), *Strenuous Decades: Global Challenges and the Transformation of Chinese Societies in Modern Asia*, : Mouton de Gruyter, March 21th 2022. pp. 223-252 (kindle version)を発表した。

そのほか、学会発表としては、“Was the native interest rate good for financial stability? :Money creation, clearing system, and a growth of a modern banking sector in Shanghai in the early 20th century”, Session ‘Crises, money doctors and reforms’, XIXth World Economic History Congress, Paris, 29th July 2022 を発表した。

この発表が実施されたセッションは、今年度中、遅くとも来年度中には、発表者の報告内容を論文にまとめて本を出版する予定であり、現在、寄稿論文を執筆中である。

上記の研究成果は、総じて、戦間期の中国において、近代国民国家の建設と対応して進められた欧米の制度の導入が、地域的、慣習的な金融秩序に代替することで、金融システム全体の安定と発展が実現されたとする単純な理解に一定の見直しを図るという目的をある程度達成したものである。今後は、この研究成果をさらに発展させ、中国の自生的な貨幣や金融と在華外国銀行の外為業務や貨幣発行の相互関係などを研究し、より包括的な同時代の歴史像を明らかにする予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 諸田博昭	4. 巻 85
2. 論文標題 戦間期中国の銀行券発行における領用の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 161-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hiroaki Morota
2. 発表標題 Was the native interest rate good for financial stability? :Money creation, clearing system, and a growth of a modern banking sector in Shanghai in the early 20th century
3. 学会等名 XIXth World Economic History Congress , Paris, 29th July 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 鎮目雅人、高木久史、加藤慶一郎、岩橋勝、安国良一、高槻泰郎、霧見誠良、諸田博昭、西村雄志、高屋定美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 472
3. 書名 信用貨幣の生成と展開	

1. 著者名 Chi Cheung CHOI, Keng We KOH, and Tomoko SHIROYAMA	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Mouton de Gruyter	5. 総ページ数 531
3. 書名 Strenuous Decades: Global Challenges and the Transformation of Chinese Societies in Modern Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------